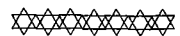
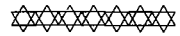


ここは俺たちの組合事務所だ 津田沼支部 弾圧を粉碎し実力で開催 第十回大会



十二月十六日、津田沼支部は、当局の大会破壊を粉碎し断固として支部組合事務所において、第十回支部定期大会を開催し、当局一鉄道労連一体となった国鉄労働運動解体攻撃を粉碎して勝利しぬいた今八七年の総括と、来たる八八年に向けての闘う決意を打ち固め、さらに、次代を担う新執行部を選出し、闘う方針を採択した。



当局の大会破壊を粉碎し 組合事務所を断固開催

激動のこの一年間、労働運動の原則を貫き、拠点支部の最先頭で闘いぬき勝利をかちとってきたわが津田沼支部定期大会に対して千葉運行部は、大会破壊を目論み、五〇名もの課員を津田沼運転区に動員し、鉄製の門を閉ざして一切の通行を遮断、さらに組合事務所前にもピケラインをはって組合員が入ることを阻止するといふとんでもない暴挙を行ってきたのである。

津田沼支部は、この当局の弾圧を実力で打ち破り、中野委員長を迎えて断固として支部組合事務所において、大会を開催したのである。

動労千葉の五大方針貫徹へ 組合員一丸となって闘いぬく

大会は、十八時より川崎青年部長の司会で開始され、議長に高田君を選出して進められた。

支部を代表して挨拶に立った綾部支部長は、当局の大会破壊を弾効したうえで「かつて経験したことのない攻撃に対して苦しみ、苦闘しながらも闘いぬき、『一企業一組合』を吹き飛ばしてきた。財政基盤確立、原職奪還など五大方針を貫徹へ全組合員一心同体となり闘いぬく体制を本大会で確立しよう」と全代議員、傍聴者に訴えた。

さらに、本部を代表して挨拶に立った中野委員長は「われわれの正しかったことが現われてきた。『赤字』の問題も解決できない。清算事業団もかつてと同じように一兆、二兆と積み重ねている。当局のベテンがはつきりしてきた。この分割・民営化とは労働組合を潰すことであり、奴隷にしようという事だ。これが成功したか、しなかった。当局も『こんなはずではなかった』と思っているのだ。いすみ鉄道問題でも強制的に出向をやりうとしたが、団交をせざるを得なくなっている。強制出向を許さない体制を築こう。財政基盤を確立し、運転保安を闘いぬこう」と提起し、これから闘う展望を示した。

次代を担う新執行部を選出



議事に入り、この一年間の総括、会計報告、八七年度運動方針(案)、予算(案)が一括提起され質疑に入った。

質疑では、カーテン、あごヒモの闘い、「自己診断書」「事故防止アンケート」の問題、検修点呼でのヘルメット着用問題などが出され、支部、本部の答弁をうけてさらに闘うことを確認し、八七年度方針を採択した。

そして、綾部支部長を引き継ぐ若々しい、新執行部を選出し、支部一丸となって闘いぬくことを誓い合い、浜野新支部長の音頭で団結ガンバロー三唱を行って大会は大成功のうちに終了した。

▲新役員▼

支部長	浜野善弘	二七	電運士
副支部長	綾部光男	四一	"
"	小倉邦夫	三八	"
書記長	吉野道夫	二八	"
書記次長	高石正博	四一	"
執行委員	深見四郎	四四	"
"	古川政史	三七	"
"	鈴木雅樹	三六	"
"	結城敏之	二六	車両係

日刊 動労千葉

87. 12. 22

No. 2726

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(〇四七)二二七二〇七